

ミズスマシ

Gyrinus japonicus Sharp

コウチュウ目 ミズスマシ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー なし

選定理由

かつては全国的に普通にみられたが減少傾向が著しい。県内でも2000年代の確認例は減少している。

形態

体長6.0~7.5mm。体型は紡錘形で背面はやや膨隆し体下面は平坦。上翅は11条の点刻列を有する。背面に銜色の光沢がある。前脚は捕獲脚、中・後脚は扁平な遊泳脚でいずれも黄褐色。眼は上下に2分される。幼虫は約18.5mmで細長く、やや扁平。体色は白色で頭・胸部は黄~黄褐色である。

国内分布

日本固有種。北海道、本州、四国、九州、対馬、種子島に分布する。

県内分布

加賀市、小松市、白山市（旧鶴来町）、能美市、金沢市、津幡町、かほく市、宝達志水町、羽咋市、中能登町、七尾市、輪島市、穴水町、珠洲市。

生態

成虫は止水域の開放水面を巡回しながら泳ぎ、水面に落ちた昆虫を捕食し、驚くと水中へ潜る。5~6月頃に水草の葉の表面に産卵し、1週間ほどで孵化した幼虫は水中や水面の小昆虫を捕食する。4~5週で老熟すると岸辺に上陸し、高さ10cm以内の部分にある植物などに泥と分泌物で蛹室をつくって蛹化する。数日後に羽化した成虫は飛翔して移動、分散する。成虫は岸辺の泥中で越冬する。

生息地の条件

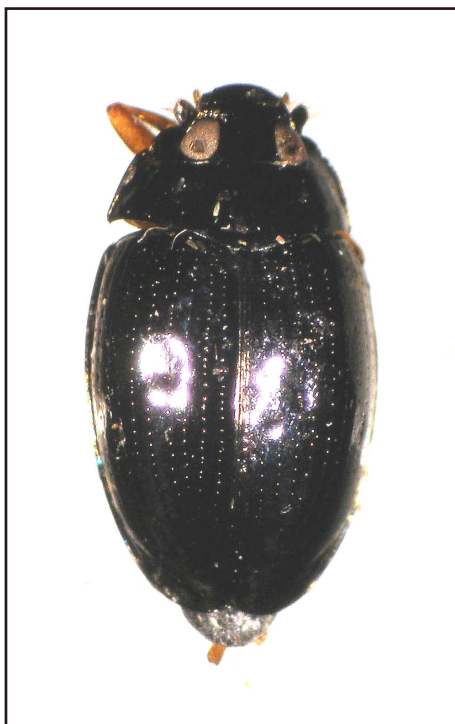
平地~山地の、水生植物の豊富な池沼、放棄水田や流れの緩やかな水路。

生存の危機

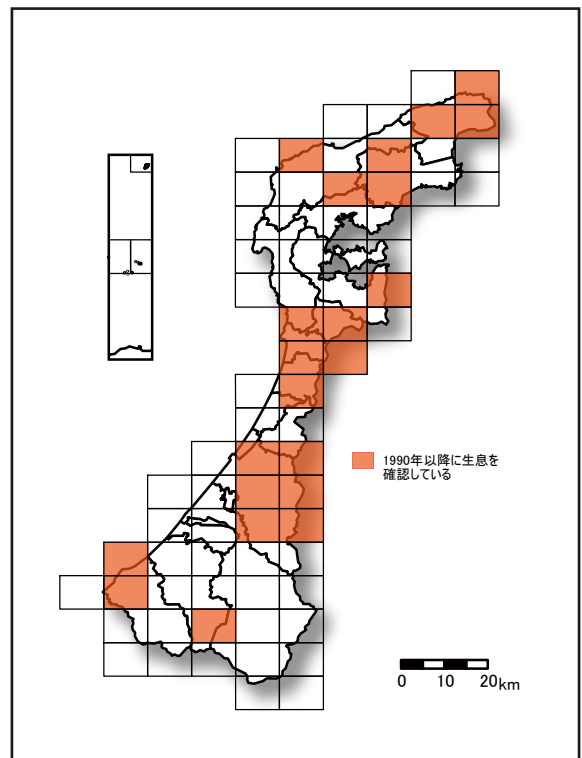
ため池のコンクリートなどによる護岸化、管理放棄、植生遷移、水質汚染（特に油など界面活性剤の流入）、外来種の侵入などが脅威である。水質悪化の防止、土の岸辺の維持、ため池の維持管理の継続、放棄水田の湛水化による水辺のネットワークの維持が保全上重要である。（A、B）

参考文献

- 恒遠マキ 1936. ミズスマシ科2種の生活史. 昆虫, (10) : 302-312.
佐藤正孝 1977. 日本産ミズスマシ科概説 1-3. 甲虫ニュース, (37) : 1-5, (38) : 1-2, (39) : 1-4.
富沢 章 2006. 中能登町（旧鳥屋町）春木で得られた昆虫類. とっくりばち, (74) : 61-64.



標本提供者: 西原昇吾



県内の分布